

春日井市における世代間交流による 地域活性化・学生共育事業

2019(令和元)年度 成果報告書



中部大学

はじめに

中部大学は、建学の精神「不言実行、あてになる人間」の下、地域社会について考え行動できる人材の育成を進めるため、2013年度～2017年度まで、文部科学省「地（知）の拠点整備事業」（COC事業）に採択された「春日井市における世代間交流による地域活性化・学生共育事業」を展開しました。2018年度からは、すでに役割を終えた一部の事業は整理縮小しつつ、この事業を大学独自で取り組む事業として継承し、今日に至っています。

この事業の目的は、中部大学が地域の知の拠点として、地域と連携した知の創造及びその継承を通じて、地域に目を向け問題解決に取り組むことができる人材としての地域創成メディエーターを育成するとともに、地域再生、地域活性化に貢献することです。

この目的を達成するため、地域関連の正課教育「地域共生実践」と地域関連科目の授業を実施するとともに、本学と地域（春日井市、春日井商工会議所、高蔵寺ニュータウン等）が連携して、報酬型インターンシップ、高齢者・学生交流（Learning Homestay）、シニア大学（中部大学アクティブアゲインカレッジ）、キャンパスタウン化（地域連携住居）、生活・住環境を考えるまちづくり、コミュニティ情報ネットワークの6事業を展開してきました。

2019年度は、昨年度までの活動成果を当初掲げた達成目標と照らし合わせて検証した上で、これまでの取り組みを継続するとともに、更なる発展を目指して活動してきました。中には、地域を春日井市に限定することなく、連携活動の範囲が拡大したものもあります。また、報酬型インターンシップや高蔵寺ニュータウンでの地域連携住居など、参加者が増えた取り組みもあります。

事業目的の一つである地域創成メディエーターの育成については、今年度も昨年度と同様にルーブリック評価を用いて、その達成要件を審査し、67名の学生を地域創成メディエーターに認定する予定となりました。

本成果報告書は、2019年度のCOC事業において、実施した各種活動とその成果をまとめたものであります。本報告書の内容を学内外に広く発信して、本学のCOC事業に関するご理解を深めていただくとともに、次年度以降の地域連携教育・研究活動に活かしていきたいと考えています。今後とも、これまでのCOC事業の経験と成果を踏まえて、大学独自の地（知）の拠点事業（地域連携共育事業）を継続し、その人材育成目標及び地域貢献目標を確実に達成すべく努力を重ねたいと存じています。学内外の多くの方々には引き続きご支援・ご協力賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2020年3月

中部大学 国際・地域戦略部門COC推進センター
センター長 松尾直規

-目次-

はじめに

1. 概要

(1) 目的・目標・概要図 1

(2) 実施体制・メンバー表 7

2. 活動報告

(1) 全体の活動成果 11

(2) ワーキンググループ等報告

① 正課教育WG 25

② 地域連携プログラムWG 27

(報酬型インターンシップ・高蔵寺NTキャンパスタウン化)

③ コミュニティ情報ネットワーク事業WG 29

④ 生活・住環境を考えるまちづくりWG 31

⑤ 高齢者・学生交流・LHS WG 34

⑥ CAAC運営委員会 38

3. 新聞記事 41

1. 概 要

(1) 目的・目標・概要図

1. 概要

(1) -1 目的

中部大学（以下本学）「地（知）の拠点整備事業」：『春日井市における世代間交流による地域活性化・学生共育事業（以下本事業）』は平成30年3月に5年計画の最終年度を迎えた。事業目的は5年間を通して設定されているため、ここでは5年間の事業目的の概要をあらためて記す。

本事業は初年度の報告書にも述べられているように本学が「地域課題の解決」および「地域に役立つ人材養成」を目的とする地域再生・発展のための地（知）の拠点となるための大学改革事業である。またその改革の成果を地域社会に還元し、地域社会に貢献していくことを目的としている。

本学はその基本理念として、『不言実行、あてになる人間』を信条とし、豊かな教養、自立心と公益心、国際的な視野、専門的能力と実行力を備えた、信頼される人間を育成するとともに、優れた研究成果をあげ、保有する知的・物的資源を広く提供することにより、社会の発展に貢献する。」こととしており、その社会貢献上の使命として、「さまざまな社会活動に参画し、大学が保有する知的・物的資源を活用することによって、地域を中心とする社会の福利向上と発展に貢献する」ことを学内外に明確にしており、地域貢献・地域連携は本来、本学の使命でもある。

すなわち本学は建学の精神「あてになる人間」育成プログラムの重要な柱として本事業を遂行しており、社会・産業界の中で地域にも目を向けて「行動できる人間」「自ら道を切り拓ける人間」「頑張れる人間」「信頼できる人間」としての学生育成を図り目指している。本学はこの事業を通してさらに一層地方大学の社会的使命を探究し、持続可能な未来社会の創造とその教育のあり方をさらに力強く追求する。

I. 全体としての目的

本事業全体の目的をさらに具体的に述べれば、地域にも目を向けて地域社会の再構築のために必要な実践的人材の育成を目指し、現代社会の主役である高齢者にとって安心・安全で豊かな社会づくり、まちづくりを春日井市に展開する。その成果を春日井地域に還元し、都市づくりを進める。さらに、その成果と知識を広く日本社会全体に拡大することで日本の発展に貢献していく。こうした実践活動を学生自身が担っていくことで、学生自身が実践的知識を深め、支援技術を学び、前述の地域であてになる人材に育っていく。

II. 教育上の目的

地域社会の再構築のために必要な実践的人材の育成を目指す。

① 「地域連携教育改革・教育システムの構築」

現在まで進めてきた教育改革をさらに発展させ、地域社会に役立つ人間となるための行動計画を持てるよう、全学共通教育の科目として新たに『地域共生実践』を設置し、学部・学科にも地域志向関連科目を設置した。こうして基礎教育と専門教育を交互に

発展的に教育し、地域社会再構築のために必要な実践的人材を育成するための教育改革を目的とする。さらに最終的に中部大学が認定する“あてになる人間＝『地域創成メディエーター』”の育成を目的とする。

②「地域連携プログラム」

春日井商工会議所と連携協定を締結し、単なる就労ではなく、人材育成プログラムとして意識的に学生を教育する報酬型インターンシップ型の就労システムを構築する。また、「高蔵寺ニュータウンのキャンパスタウン化」といった地域貢献活動においても学生を社会貢献の実践的に参加させ、高齢者・地域住民と交流させることで、高齢化社会の地域課題を理解し、積極的に課題解決策を考える能力を涵養することも目的としている。

③「コミュニティ情報ネットワーク事業」においては地域への情報発信を行うことやスポーツ障害予防を啓発する活動を目指した。

④「生活・住環境を考えるまちづくり事業」でも学生を研究活動に参加させることで、地域の課題を解決していく能力の育成にも資することが目的ともなっている。

⑤「高齢者と学生の交流、高齢者宅への Learning Home Visit (LHV)」では地域での高齢者問題を身近に感じることから、問題解決能力の育成を目指した。

⑥「シニア大学（中部大学アクティブアゲインカレッジ：CAAC）」では地域に開かれた大学としてシニア向けの学びの場を提供し、その学びを通して地域に貢献できるアクティブシニアの育成を目指した。

Ⅲ. 研究上の目的

地域活性化の課題研究として以下の研究の推進を目的とする。

③「コミュニティ情報ネットワーク事業」

地域住民に役立つコミュニティ情報を発信し、豊かで便利な地域として発展するための情報の提供を行う。

④「生活・住環境を考えるまちづくり事業」

春日井市のまちづくりの課題解決に協働し、地域の住民が安心して快適な生活を送れるようになることを目的に社会基盤の整備、地域環境の改善に関する開発研究を行う。

その他社会貢献活動関連研究

「高齢者-学生交流・LHV事業」や「シニア大学」の開設などの社会貢献に関連しながら、地域の課題をさまざまな観点から調査研究し、地域活性化と高齢者支援の手段を見いだしていくことを目的とした研究活動も並行して行う。

Ⅳ. 社会貢献上の目的

改革の成果を春日井を中心とした地域に還元し、地域の再生・活性化を支援するため、以下の地域社会貢献を目的とする。

①「地域連携教育改革・教育システムの構築」

地域に役立つ人材を教育機関として養成し地域に送り出すことで社会に貢献する。地

域の課題を現実的に理解し、解決のために行動を起こすことができる“あてになる人材”を養成する。そして地域のコミュニティ活動の中心人物であり、リーダーとなることのできる知識と問題解決能力を持ち、良好な対人関係を維持できる人材を地域に送り出す。これは教育機関として重要な社会貢献活動である。さらに本事業では、春日井市の課題克服のための解決策を中部大学が軸となって展開し、現代社会の最重要課題である高齢化社会の以下の課題解決に挑戦する。

- ⑤「高齢者と学生の交流、高齢者宅への Learning Home Visit(LHV)」
高齢世帯や独居高齢者の見守りや生活支援を目的に若者による高齢者との交流や同居活動を進める。
- ⑥「シニア大学（中部大学アクティブアゲインカレッジ：CAAC）」
高齢者の健康づくりや再雇用のための技術資格取得を目的に実践教育を行う。
その他、③「コミュニティ情報ネットワーク事業」、④「生活・住環境を考えるまちづくり事業」でも研究活動を通して地域社会を安全・安心で便利なものとしていくことで地域社会に貢献していく。

(1)-2 目標

2017 年度で文部科学省補助金事業は終了したが、前項の目的を達成するため、今年度の目標を以下のように設定した。

I. 全体

- ①COC推進委員会委員とワーキンググループの統合・再編
各事業活動リーダー・副リーダーおよび各学部代表委員からなるCOC推進委員会の機能を維持し、活動内容に応じてワーキンググループを一部、統合・再編し（実施体制・メンバー表参照）、本事業全体の推進にあたる。
- ②地域創成メディアーターの育成
2015 年度までの立ち上げ期間から、2016 年度以降、具体的アクションプランを実施し、今年度も引き続き地域創成メディアーターの輩出を図る。
- ③内部評価委員会の開催
学長を委員長とする学部長・研究科長会のメンバーに春日井市をオブザーバーに加えて内部評価委員会を開催し、事業活動の報告とそれに基づいて評価を受ける。

II. 教育

教育活動としては地域連携教育の推進と報酬型インターンシップの確立を目指す。

- ①地域連携教育改革を実施し、教育システムの構築
 - 1) 地域共生実践を春学期3講義・秋学期5講義、並列開講の運営。担当教員・協力者の勧誘と増員。
 - 2) 地域創成メディアーターへの導き。
 - 3) 地域創成メディアーター学生発表会（+エクспレッション）を開催し、地域創

成メディエーターをルーブリック評価に基づき認定する。

②報酬型インターンシップ制度の維持・発展

- 1) 春日井商工会議所との連携強化。
- 2) 特命教授の会の開催。
- 3) 学生への説明会の開催。

Ⅲ. 研究

研究活動としてコミュニティ情報ネットワークの構築と高蔵寺ニュータウンを中心としたまちづくり活動を展開する。

③地域住民に役立つ情報発信

- 1) NPO活動情報と地域への有益情報発信。

④春日井市のまちづくりの課題解決に協働し、地域住民が安心快適な生活を送れるようになることを目的に社会基盤の整備、地域環境の改善に関する地域開発を行う。

- 1) まちづくり講演会を開催し、全学部の学生に「まちづくり」の意義と参加方法について学ぶ機会をつくる。
- 2) まちづくり勉強会（学内）、タウンウォッチング（学外）を実施する。
- 3) 正課並びに自主活動を強化する。

Ⅳ. 社会貢献

高齢者・学生の交流活動を実施し、社会貢献活動として高齢者-学生交流・Learning Home Visit（LHV）事業、シニア大学、高蔵寺ニュータウンのキャンパスタウン化の各活動を軌道に乗せる。

⑤高齢世帯および独居高齢者の見守りや生活支援を目的に、若者による高齢者との交流や同居を実践する。

- 1) KCGサークル（地域発の健康教室）の運営サポート。
- 2) LHVの実施。
- 3) 地域連携教育セミナー、LHV体験報告会・ホストファミリー懇談会の実施。

⑥高齢者の健康づくりや再雇用のための技術資格取得を目的としたシニア大学を運営する。

- 1) 4・5期生の後期授業（春学期）を行い、4期生の修了式を行う。
- 2) 6期生の入学式を行い、5・6期生の授業（秋学期）を行う。
- 3) カリキュラムの改変・充実を図る。

②地域連携住居への入居者の促進

- 1) 高蔵寺NT内の空物件への学生の入居促進。
- 2) 中部大学KNT創生サポーターズCU+（CU+）による地域貢献活動の活性化。

春日井市の知の拠点＝**中部大学**
 学部：7学部(29学科)、大学院：6研究科
 学生数：約10000人、教員数：約500人

春日井市における世代間交流による地域活性化・学生共育事業

地域の方々と学生、地域と大学がキャンパスの壁を越えて融合し、持続可能な新しい未来社会とその教育を春日井の地に実現する。
中部大学は平成26年に開学50周年を迎える。中部大学ならやれる！中部大学が成功させる！

あてになる人間の育成
**中部大学認定
 地域創成メディアエーター**

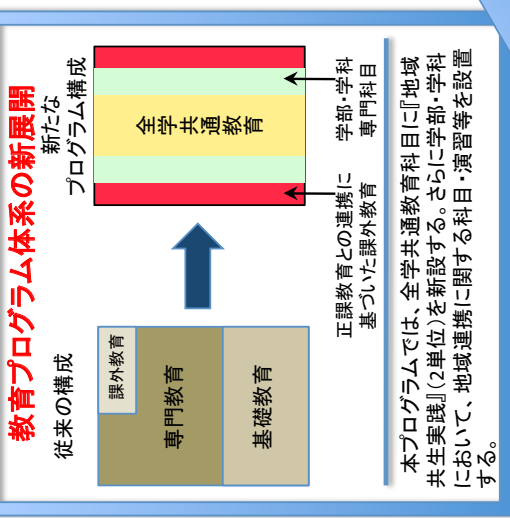
本プログラムで育成した、中部大学認定「地域創成メディアエーター」が、人と人との絆をつくる介在をし、活力あるコミュニティを形成する。

地域との関わり体験を通して他者を理解し、自身の価値観をみつめる



春日井市にある高蔵寺ニュータウンを課題解決のモデル地域と位置づけ、包括的な人材育成と地域活性化事業を中部大学と自治体が協力して実施する。本市全域に発展させる予定である。事業終了時には、春日井市が活性化された、人材が育つ。

要請・課題・ニーズ



本プログラム推定参加学生数：
 25年度：約50名、26年度：約80名
 27年度：約400名
 28年度：約600名
 29年度：約800名
 (以降、順次増加する。)

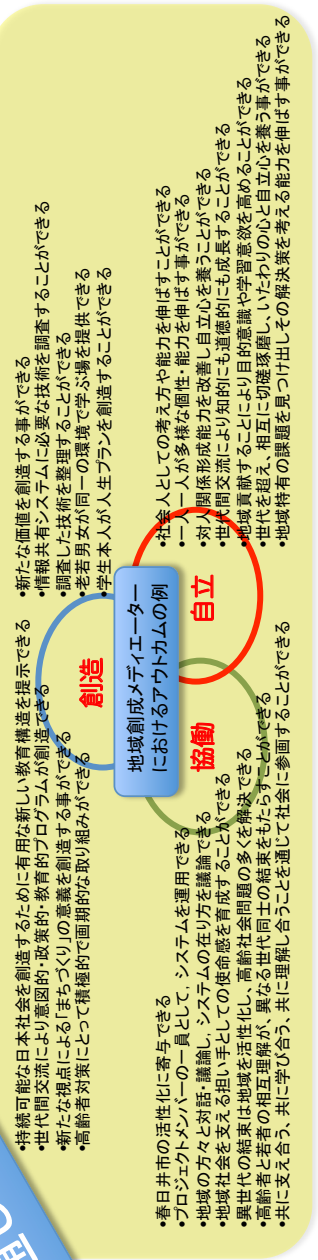


学内の実施体制
 学長主導の基、COC担当理事(兼)学長を置き、本取組みを統括し、推進する。

中部大学のCOCとしての目標

- “地域”と言う名のシャワー(刺激)で学生を育てる。
- 地域だけでは解決できない課題を、大学の持つシーズを活かして、地域と協働で取り組む。
- “まちづくり”の不可欠な資源が次代を担う若者である。この意識を高め、地域と共に育てる。
- 地域において優しい心配りができる、真のリーダー養成を目指す。
- 地域からあてにされる大学を目指す。
- 地域連携において、春日井モデルを明確にし、このモデルを全国に伝える。

<教育改革>
 中部大学では、平成20年度以降大幅な教育改革を進めてきた。本事業では、更なる教育改革として、全学共通教育及び学部の正課の地域関連科目を導入した「**新しい教育課程**」を実施する。さらに、**COC教育科**を新たにスタートさせる計画である。



協力・提案・シナジー

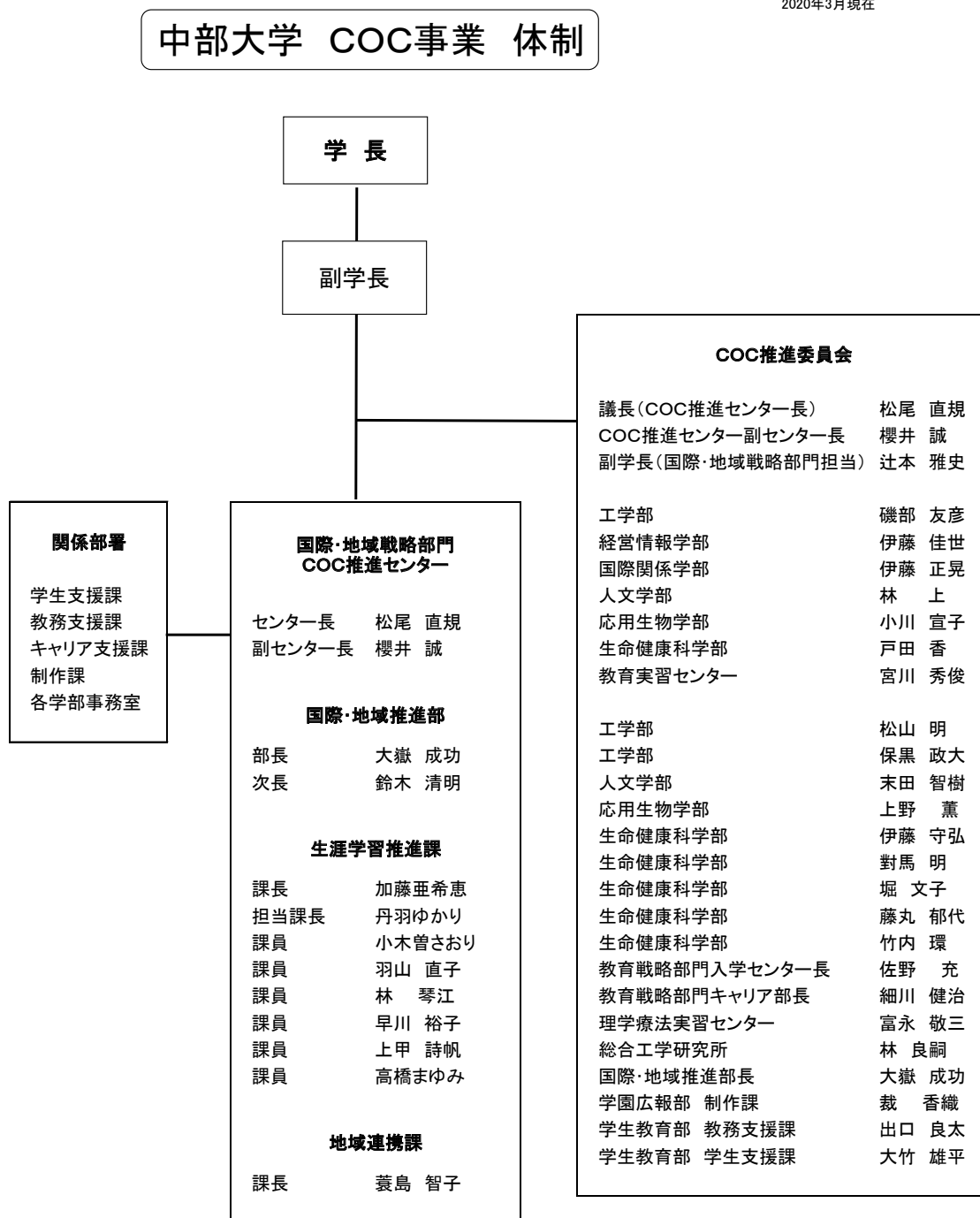
(注)2013年申請書類より抜粋

(2) 実施体制・メンバー表

(2) 実施体制・メンバー表

本事業を全学的に推進・実施するために以下のように学長を総括責任者とし、全学体制を構築。実際の事業は、全学部からの委員を含むCOC推進委員会を設置し推進にあたっている。またCOC推進委員会内に活動毎に6のワーキンググループを設け各活動を展開し、事務部門は2019年度から国際・地域推進部で事業全体の事務的管理にあたっている。(以下、中部大学COC事業体制図およびCOC・WGメンバー表参照)

2020年3月現在



2019年度 COC・WGメンバー

正課教育WG (活動番号①)

委員長	上野 薫	(応用生物学部 環境生物科学科 准教授)
副委員長	伊藤 守弘	(生命健康科学部 生命医科学科 教授)
委員	竹内 環	(生命健康科学部 助教)
同	山羽 基	(工学部 建築学科 教授)
同	伊藤 佳世	(経営情報学部 経営総合学科 准教授)
同	羽後 静子	(国際関係学部 国際学科 教授)
同	小川 宣子	(応用生物学部 食品栄養科学科 教授)
同	牧野 典子	(生命健康科学部 保健看護学科 教授)

オブザーバー	松尾 直規	(COC推進センター長)
(事務局)	丹羽ゆかり	(生涯学習推進課 担当課長)

地域連携プログラムWG (活動番号②)

委員長	伊藤 守弘	(学生部長補佐/生命健康科学部 生命医科学科 教授)
副委員長	櫻井 誠	(COC推進センター副センター長/工学部 応用化学科 教授)
委員	花井 忠征	(学生部長/現代教育学部 幼児教育学科 教授)
同	羽後 静子	(国際関係学部 国際学科 教授)
同	武田 明	(生命健康科学部 臨床工学科 教授)
同	横手 直美	(生命健康科学部 保健看護学科 准教授)
同	丹羽ゆかり	(生涯学習推進課 担当課長)
同	大竹 雄平	(学生支援課長)
同	田中 順	(学生支援課 担当課長)
オブザーバー	松尾 直規	(COC推進センター長)
(事務局)	細川 貴史	(学生支援課)
同	殿垣 博之	(学生支援課)

コミュニティ情報ネットワーク事業WG (活動番号③)

委員長	保黒 政大	(工学部 宇宙航空理工学科 教授)
副委員長	富永 敬三	(理学療法実習センター 講師)
委員	前田 和昭	(経営情報学部 経営総合学科 教授)
同	宮下 浩二	(生命健康科学部 理学療法学科 教授)
(事務局)	丹羽ゆかり	(生涯学習推進課 担当課長)

生活・住環境を考えるまちづくりWG (活動番号④)

委員長	磯部 友彦	(工学部 都市建設工学科 教授)
副委員長	松山 明	(工学部 建築学科 准教授)
委員	岡本 肇	(工学部 都市建設工学科 准教授)
同	余川 弘至	(工学部 都市建設工学科 講師)

同	横江 彩	(工学部 建築学科 講師)
同	尾鼻 崇	(人文学部 コミュニケーション学科 講師)
同	林 良嗣	(総合工学研究所 教授)
同	小川 宣子	(応用生物学部 食品栄養科学科 教授)
(事務局)	丹羽ゆかり	(生涯学習推進課 担当課長)

高齢者・学生交流・LHS WG(活動番号⑤)

委員長	戸田 香	(生命健康科学部 理学療法学科 教授)
副委員長	堀 文子	(生命健康科学部 作業療法学科 准教授)
委員	長島 万弓	(応用生物学部 食品栄養科学科 教授)
同	野田 明子	(臨床検査技術教育・実習センター 教授)
同	三摩 真己	(人文学部 コミュニケーション学科 教授)
同	末田 智樹	(人文学部 歴史地理学科 教授)
同	尾方 寿好	(生命健康科学部 スポーツ保健医療学科 准教授)
同	矢澤 浩成	(理学療法実習センター 講師)
同	谷利 美希	(作業療法実習センター 助教)
同	松村 亜矢子	(生命健康科学部 講師)
同	北辻 耕司	(生命健康科学部 スポーツ保健医療学科 助教)
同	大竹 雄平	(学生支援課長)
同	殿垣 博之	(学生支援課)
オブザーバー	櫻井 誠	(COC推進センター副センター長/工学部 応用化学科 教授)
(事務局)	丹羽ゆかり	(生涯学習推進課 担当課長)

CAAC運営委員会(活動番号⑥)

委員長	松尾 直規	(カレッジ長/COC推進センター長)
副委員長	對馬 明	(コース長/生命健康科学部 理学療法学科 教授)
委員	羽後 静子	(コース長/国際関係学部 国際学科 教授)
同	櫻井 誠	(COC推進センター副センター長/工学部 応用化学科 教授)
同	林 上	(人文学部 歴史地理学科 特任教授)
同	末田 智樹	(人文学部 歴史地理学科 教授)
同	藤丸 郁代	(生命健康科学部 スポーツ保健医療学科 准教授)
同	甲田 道子	(応用生物学部 食品栄養科学科 准教授)
同	伊藤 正晃	(国際関係学部 国際学科 講師)
同	出口 良太	(教務支援課長)
同	大竹 雄平	(学生支援課長)
(事務局)	丹羽ゆかり	(生涯学習推進課 担当課長)
同	林 琴江	(生涯学習推進課)

2. 活動報告

(1) 全体の活動成果

2. 活動報告

(1) 全体の活動成果

事業活動はCOC推進委員会ならびに活動毎のワーキンググループにより行なわれてきたが、それらに共通する課題や統括する活動はCOC推進センター長を中心にCOC推進委員会等COC全体で取り組んできた。それらの成果は以下のようである。

1) 中部大学COC事業のスタート

文部科学省「地（知）の拠点整備事業」としての5年間が終了し、平成30年度からは中部大学COC事業として再スタートをした。7つあったWGを6つに統合し、正課外活動を春日井市外へも広げて認定した。

2) COCホームページの拡充

各ワーキンググループの活動内容を中心に適宜更新し拡充した。

3) 中部大学フェアのブース出展

9月12日（木）開催の中部大学フェアにCOC事業の紹介ブースを出展した。

4) COC推進委員会の開催

各ワーキンググループリーダーと各学部代表委員などからなるCOC推進委員会の構成員を見直した。委員は、委員長以下29名から27名へと変更し、新体制のCOC推進委員会が各活動の報告と重要事項の審議にあたった。

5) 地域創成メディエーターの育成

2015年度までの立ち上げ期間から2016年度はCOC事業における地域創成メディエーターの本格的実施年度となり、以降、2019年度も前年度同様に実施した。

(1) COC事業における地域創成メディエーターの人物像

本学の建学の精神「不言実行、あてになる人間」育成プログラムの重要な柱として、COC事業では「地域創成メディエーター」の育成を行っている。社会・産業界は、都市だけでなく「地域にも目を向けられる人材」が求めている。即ち「自ら行動できる人間」「考えられる人間」「自ら道を切り拓ける人間」「がんばれる人間」「信頼できる人間」「地域にも目を向けられる人間」としての学生育成を図っている。学生が地域社会に触れると「なぜ」「どうして」とこれまでの同学年の学生仲間関係とは違う驚き等を感じ、対処法や改善策を考えると自然と「考える力」が熟成される。

(2) 地域創成メディエーター育成のための具体的アクション

以上の認識の下に、COC推進委員会、事務局が一丸となって、他部門とも密接な協力の下に以下に示すような具体的なアクションプランを作り、着実に実施し、地域創成メディエーターの育成を図った。

- ① 正課外教育事業の体験を1つ以上とする。
- ② オリエンテーション時に学生(新入生から現3年生)に対して、地域創成メディエーター取得を促すチラシ(別紙①参照)を配布し、学生への周知を図った。
- ③ 推進委員は担当する正課科目の講義にて地域創成メディエーターの取得を学生に促した。
- ④ 教務支援課に依頼し、資格取得に必須となる正課科目を取得あるいは履修中の学生を学科ごとにリストアップした。
- ⑤ 各推進委員に学科毎(場合により学部)の上記リストを渡し、各学科の3年生指導教員とタイアップしてリストの学生に地域創成メディエーターを取得するように積極的に促した。
- ⑥ 副委員長が事務局と連携し、⑤のフォローアップを行った。
- ⑦ 推進委員および「動く」の活動担当者から、173名もの地域創成メディエーター候補の学生を選出いただき、「動く」の課外活動のフォローアップを行った。
- ⑧ 「動く」の活動は、昨年認定された活動のうち今年度も継続する32活動と、新規認定された2活動で34活動となった。
- ⑨ キャリア教育科目(自己開拓、社会人基礎知識)において、3年生以上のみ、大学側の受講人数制限により、本人の意思とは関係なく「学ぶ(正課教育)」を履修できない希望学生には、特別課題レポートを提出させて、地域創成メディエーター資格条件の「学ぶ」をクリアとする特別措置を認めた。また、特別課題教育科目では、3年生以上に限り「持続学のすすめ」「地域の防災と安全」での読み替えを特別措置とした。
- ⑩ 地域創成メディエーター育成のルーブリック評価で、育成する人材像を明確にした。(別紙②参照)

(3) 地域創成メディエーター取得学生の推移

立ち上げ期間の2014年度4名及び2015年度5名から、本格実施となった2016年度は144名、2017年度からはルーブリック評価に基づき「地域創成メディエーター」の資格を132名、2018年度は108名に授与した。2019年度は67名の学生に授与できる運びとなっている。

2020年度以降も引き続き地域創成メディエーターの育成を進めていく予定である。

6) 地域創成メディエーター学生発表会「+エクспレッション」開催(別紙③参照)

2月18日(火)本学不言実行館アクティブホールとスチューデント・コモنزにおいて、中部大学地域創成メディエーター学生発表会「+エクспレッション」を開催した。

地域創成メディエーター資格認定の最終課題「+エクспレッション」は講義での規定単位取得に加え、キャンパスを地域に広げた課題体験に参加・実践した学生たちが、まちの再生や地域活性化などの特有の課題に地域と協働して現場で解決策を考えて取り組んだ過程と成果を発表。口頭発表6名、ポスター発表61名の学生が地域創成メディエーター候補生となった。参加者は、一般市民19名、教職員46名、学生7人が来場した。

参加者にアンケートを依頼し、20名から回答を得た。(別紙④参照)

なお、当日、公の理由により発表が困難である学生は3月にポスター発表を行った。

7) 学生の活動報告

中部大学ステークホルダー交流会「中部大学学生力体感会 2019」が11月15日(金)に本学不言実行館2階スチューデントcommonsにて開催され、中部大学EMS研究会に所属する学生が中部大学COC事業「動く」の活動に認定されている「地域やJリーグ等で行われるイベントに対する救護ボランティア活動」について発表した。

8) 学部長会等からなる内部評価委員会の開催

1月28日(火)に学部長・研究科長会構成員からなる内部評価委員会が開催され、2019年度事業活動の内部評価が行われた。オブザーバーとして春日井市にも出席いただいた。

9) 中部地区COC事業採択校情報交換会

12月14日(土)に岐阜大学でCOC事業およびCOC+事業の採択校が参集して、情報交換会が開催された。

中部大学
学長認定
資格

春日井のまちがキミのキャンパス。 地域創成メディエーター



自分らしい人生や、キャリアビジョンを描く第一歩!

「地域創成メディエーター」資格とは、在学中から社会経験を積み、社会で生きる力を身につける、中部大学式「人材育成体験プログラム」。春日井のまちで、地域の人々と共に地域のさまざまな問題解決への取り組みを経て「行動できる人」「自ら道を切り拓く人」「頑張れる人」「信頼できる人」として中部大学が自信を持って認定し、推薦できる学生の証です。

学ぶ

授業で
知識を習得
〔正課〕

自立した社会人として地域の人々と関わるために、
地域社会の多様な背景を知り、専門的な知識を身につけよう。

Aの科目から1単位以上、
B～C科目から各2単位以上、合計10単位以上 必須

A キャリア教育科目

「自己開拓」

グループワークによる実習。協同作業を通じて自分をより深く知ることができます。

「社会人基礎知識」

自分の適性に合う職種や企業を選ぶための基礎的な知識を習得します。

B 特別課題教育科目

必修「地域共生実践」

選択

「持続学のすすめ」

「地域の防災と安全」「地球を観る」

「人類と資源」「グローバル環境論」

C 地域関連科目

メディエーター資格取得の動機や地域の理解に役立つ科目を自由選択

選択した科目で会得した知識が、地域課題へどう繋がったか、「関連」や「動機」、「成果」を表現できればOKです。

※地域関連科目の詳細は事務局まで

動く

課外体験に
参加・実践
〔課外〕

キャンパスを春日井市に広げて、まちの再生や地域活性化など、特有の課題に取り組む現場で解決策を考えて実践にあたります。

1プロジェクト以上に参加 必須

プロジェクト活動の一例

高齢者との交流

- シニア大学の講義を補助
- 世代間交流会への参加
- ラーニングホームヴィジットでシニア宅の訪問や共同生活を体験

イベントの運営を通して地域貢献

- 高校の体育系部活の運営補助
- 子育て相談会の運営補助
- 街のイベント情報誌「まちこみゅニュース」の編集・発行

春日井のまちを知るまちづくりを考える

- 高蔵寺ニュータウン地域連携住居への入居と地域交流イベント参加
- 障害者スポーツのすすめ
- 森の健康診断

技術を身につけながら地域貢献

- 報酬型インターンシップ
- NPO活動情報発信Webサイトの作成
- 医療情報共有システムの開発・提供
- 地域の健康教室の活動支援

※そのほかさまざまな活動が計画されています。プロジェクトの詳細は事務局まで



参加者
VOICE

論理的に考える力が鍛えられた。

就職の面接で履歴書に記載したメディエーターについて質問された。発表資料を再び説明することで、自分のペースで面接を進められた!

何となく考えていた自分の将来が明確化できた! 資格取得後の今、自分の地元に戻り、地域に役立てる就職先を考えている。

発表の練習を繰り返すことで、人と話すことに自信が持てた。

地域と社会に選ばれる、「実践力」「応用力」「人間力」を養います。

- ✓ 専門性がより高まる
- ✓ 直接就職に結びつく可能性がある
- ✓ 職業の適性がわかる
- ✓ 就活時のアピールポイントになる
- ✓ コミュニケーション能力・思考力が高まる
- ✓ 幅広い価値観が学べる
- ✓ 学部学科を超えた仲間ができる

メリット
いっぱい!
いつからでも
気軽にチャレンジ
できるのがイイね!

気になったら
事務局へ来てね!

中部大学 国際・地域推進部 生涯学習推進課 キャンパスプラザ2F
Phone.0568-51-1763 e-mail:coc@office.chubu.ac.jp www3.chubu.ac.jp/coc



別紙② ルーブリック評価〈A-2表〉

〈A-2表〉

【ルーブリックは、学生に見せて、この項目で評価されることを伝えて頂きますようお願いいたします。】

中部大学地域創成デザインエーター資格申請 ルーブリック(A-2) 【動くの活動責任者(推薦者)が記入して下さい。申請書〈A-1表〉に添付の上、提出下さい。】

被推薦者氏名		所属		氏名					
認定活動名称		学級番号		推薦者(教職員)					
到達目標	大項目	A(5点)	B(4点)	C(3点)	D(2点)	E(4点) C(3点)	F(0点) E(0点)	点数	
1) 地域で生じている問題について理解し、解決のための地域の取り組みに主体的かつ継続的に仲間を協力し参加することができる。またその活動に意義を見出すことができる。 2) 取り組みに係る様々な主体とコミュニケーションを円滑にすることができ、自分の担当内容について責任をもって取り組むことができる。そのため、POCAサイクル、報告・連絡・相談を滞りなく実施することができる。 3) 地域の取り組みに係ることで、自己理解を深め、自己啓発を促し、キャリア設計を再構築することができる。 4) 自分の専門性と特性を活かし、新しい視点からの意見や提案をすることができ、	合計10単位の整合性がとれている	3	十分整合性がとれている	整合性が不十分	整合性が不十分	整合性が不十分	整合性がない		
	自由選択の「地域連携科目」が活動(動く)と関連している	3	十分関連している	関連している	関連が不十分	関連が不十分	関連が無い		
	自由選択の「地域連携科目」の本来の意義や目的が理解できる	3	十分理解している	理解している	理解が不十分	理解が不十分	理解が無い		
	自分にとっての「関連科目」の意義が整理できる	3	十分整理されている	整理されている	整理が不十分	整理が不十分	整理されていない		
	他者との関わりを学び、実践できる	3	十分実践できる	実践できる	実践できない	実践できない	実践できない		
	自分と社会の関係について、自分の考えを持ち、それを人に説明できる	3	十分説明できる	説明できる	説明できない	説明できない	説明できない		
	組織を活性化させる力が身についている	3	十分身についている	身につけている	身につけていない	身につけていない	身につけていない		
	"持続可能な社会"のために必要なもの、ことわりを考える力が身についている	3	十分身についている	身につけている	身につけていない	身につけていない	身につけていない		
	考え方や価値観を異にする人々との対話に要するコミュニケーション能力が身についている	3	十分身についている	身につけている	身につけていない	身につけていない	身につけていない		
	合憲形成のために重要な行動が理解できる	3	十分理解している	理解している	理解が不十分	理解が不十分	理解が無い		
	1) 参加したプロジェクトの目的や意義が理解できる	1) 3	指導がなくても、十分な内容を他者に明確に伝えることができる	若干の指導をすれば、必要な内容の7割程度を他者に明確に伝えることができる	詳細な指導をすれば、必要な内容を他者に明確に伝えることができる	詳細な指導をすれば、必要な内容を他者に明確に伝えることができる	詳細な指導をすれば、必要な内容を他者に明確に伝えることができる	詳細な指導をしても理解ができない	
	2) 十分な量の活動ができる	1) 3	行動に関して、運賃や間接費がほとんどなく、確実に実施することができる	行動に関して、なまに運賃や間接費がかかるが、自らそれに取り組む修正し、真の向上のために努力を重んずることができる	行動に関して、運賃や間接費がかかるが、自らそれに取り組む修正し、真の向上のために努力を重んずることができる	行動に関して、運賃や間接費がかかるが、自らそれに取り組む修正し、真の向上のために努力を重んずることができる	行動に関して、運賃や間接費がかかるが、自らそれに取り組む修正し、真の向上のために努力を重んずることができる	行動に関して、運賃や間接費がかかるが、自らそれに取り組む修正し、真の向上のために努力を重んずることができる	
3) 十分な量の活動ができる	1) 3	申請者に期待される活動量を十分に満たして参加することができる	申請者に期待される活動量の6割程度は参加することができる	申請者に期待される活動量の3割程度は参加することができる	申請者に期待される活動量の3割程度は参加することができる	申請者に期待される活動量の3割程度は参加することができる	申請者に期待される活動量の3割程度は参加することができる		
4) 自分の専門性と特性を活かし、新しい視点からの意見や提案をすることができ、	3	責任感をもって活動に参加できる	自分の仕事や専門性も活かしながら、責任感をもって活動に参加できる	自分の仕事や専門性も活かしながら、責任感をもって活動に参加できる	自分の仕事や専門性も活かしながら、責任感をもって活動に参加できる	自分の仕事や専門性も活かしながら、責任感をもって活動に参加できる	自分の仕事や専門性も活かしながら、責任感をもって活動に参加できる		
5) 主体的に活動に参加できる	1) 5	主体的に活動に参加できる	指導がなくても、主体的に活動に参加することができる	指導がなくても、主体的に活動に参加することができる	指導がなくても、主体的に活動に参加することができる	指導がなくても、主体的に活動に参加することができる	指導がなくても、主体的に活動に参加することができる		
6) 解決すべき課題が理解できる	1) 5	解決すべき課題が理解できる	指導がなくても、十分な内容を他者に明確に伝えることができる	指導があれば、必要な内容の7割程度を他者に明確に伝えることができる	指導があれば、必要な内容の3割程度を他者に明確に伝えることができる	指導があれば、必要な内容を他者に明確に伝えることができる	指導があれば、必要な内容を他者に明確に伝えることができる		
7) 課題解決のためにクリエイティブなアイデアを提案できる	3	課題解決のためにクリエイティブなアイデアを提案できる	指導がなくても、適切な情報収集およびそれに基づき客観的な判断を十分に実行することができる	指導があれば、適切な情報収集およびそれに基づき客観的な判断を十分に実行することができる	指導があれば、適切な情報収集およびそれに基づき客観的な判断を十分に実行することができる	指導があれば、適切な情報収集およびそれに基づき客観的な判断を十分に実行することができる	指導があれば、適切な情報収集およびそれに基づき客観的な判断を十分に実行することができる		
8) プロジェクトにおける自分の役割が説明できる	2) 3	プロジェクトにおける自分の役割が説明できる	指導がなくても、十分な内容を他者に明確に伝えることができる	指導があれば、十分な内容を他者に明確に伝えることができる	指導があれば、十分な内容を他者に明確に伝えることができる	指導があれば、十分な内容を他者に明確に伝えることができる	指導があれば、十分な内容を他者に明確に伝えることができる		
9) チーム活動における自分の特性を理解し、チームに貢献できる	3) 4) 3	チーム活動における自分の特性を理解し、チームに貢献できる	自分で自分の特性を把握し、他者にも伝えることができ、活動にもそれを活かす努力をしている	指導があれば、自分の特性を把握し、他者にも伝えることができる	指導があれば、自分の特性を把握し、他者にも伝えることができる	指導があれば、自分の特性を把握し、他者にも伝えることができる	指導があれば、自分の特性を把握し、他者にも伝えることができる		
10) 自分の専門性を活かし、新しい視点からの意見や提案をすることができ、	4) 3	自分の専門性を活かし、新しい視点からの意見や提案をすることができ、	自らの専門分野に関する情報収集をよりよく進めることができる	指導があれば、自分の専門分野に関する情報収集をよりよく進めることができる	指導があれば、自分の専門分野に関する情報収集をよりよく進めることができる	指導があれば、自分の専門分野に関する情報収集をよりよく進めることができる	指導があれば、自分の専門分野に関する情報収集をよりよく進めることができる		
11) POCAサイクルを理解し、実行できる	2) 3	POCAサイクルを理解し、実行できる	POCAサイクルを理解し、サイクルを回しながら活動をよりよく進めることができる	指導があれば、POCAサイクルを理解し、サイクルを回しながら活動をよりよく進めることができる	指導があれば、POCAサイクルを理解し、サイクルを回しながら活動をよりよく進めることができる	指導があれば、POCAサイクルを理解し、サイクルを回しながら活動をよりよく進めることができる	指導があれば、POCAサイクルを理解し、サイクルを回しながら活動をよりよく進めることができる		
12) 報告・連絡・相談(ホウレンソウ)を理解し、実行できる	2) 3	報告・連絡・相談(ホウレンソウ)を理解し、実行できる	指導がなくてもホウレンソウを理解でき、適切な報告・連絡・相談がおよびよき	指導があればホウレンソウを理解でき、適切な報告・連絡・相談がおよびよき	指導があればホウレンソウを理解でき、適切な報告・連絡・相談がおよびよき	指導があればホウレンソウを理解でき、適切な報告・連絡・相談がおよびよき	指導があればホウレンソウを理解でき、適切な報告・連絡・相談がおよびよき		
推薦理由		小計点 [70点満点]		配分考慮後の合計点(0点~9.5/35点満点)					

別紙② ルーブリック評価〈B表〉

〈B表〉

中部大学地域創成メディアセンター資格申請 ルーブリック(B) 【発表指導責任者が申請後から発表会4日前までに記入提出ください。】
 【ルーブリックは、学生に見せて、この項目で評価されることを伝えて頂きますようお願いいたします。】

被指導者氏名		学籍番号		所属		発表指導責任者		氏名			
認定活動名称		学級番号		所属		発表指導責任者		氏名			
区分	小区分	選定番号	大項目	発表目標	3A 5A	A(5点)	A(3点)	B(2点)	C(1点)	D(0点) F(0点)	点数
「動く」	内容・組織の理解	1	参加したプロジェクトの活動目的が理解できる	1) 地域で生じている問題について理解し、解決のための地域的取り組みに主体的かつ継続的に仲間と協力し参加することができる。またその活動に意義を見出すことができる。	3	指導がなくても、十分な内容を他者に明確に伝えることができる	若干の指導をすれば、必要な内容の7割程度を他者に明確に伝えることができる	詳細な指導をすれば、必要な内容の5割程度を他者に明確に伝えることができる	詳細な指導をすれば、必要な内容の3割程度を他者に明確に伝えることができる	詳細な指導をすれば、必要な内容の1割程度を他者に明確に伝えることができる	3
		2	参加したプロジェクトの活動目的が理解できる	2) 取り組みに係る様々な主体とコミュニケーションを円滑にすることができ、自ら担当内容について責任をもつて成し遂げることができる。そのためのPDCAサイクル、報告・連絡・相談を滞りなく実施することができる。	3	指導がなくても、十分な内容を他者に明確に伝えることができる	若干の指導をすれば、必要な内容の7割程度を他者に明確に伝えることができる	詳細な指導をすれば、必要な内容の5割程度を他者に明確に伝えることができる	詳細な指導をすれば、必要な内容の3割程度を他者に明確に伝えることができる	詳細な指導をすれば、必要な内容の1割程度を他者に明確に伝えることができる	3
		3	参加したプロジェクトの運営組織(フレームワーク)と関係者(対象者)について理解できる	3) 地域の取り組みに係ることで、自己理解を深め、自己発表を進め、キャリア設計を再構築することができる。	3	指導がなくても、十分な内容を他者に明確に伝えることができる	若干の指導をすれば、必要な内容の7割程度を他者に明確に伝えることができる	詳細な指導をすれば、必要な内容の5割程度を他者に明確に伝えることができる	詳細な指導をすれば、必要な内容の3割程度を他者に明確に伝えることができる	詳細な指導をすれば、必要な内容の1割程度を他者に明確に伝えることができる	3
		4	参加したプロジェクトの成果について理解できる	4) 自分の専門性と特性を活かし、新しい視点からの意見や提案をすることができる。	3	指導がなくても、十分な内容を他者に明確に伝えることができる	若干の指導をすれば、必要な内容の7割程度を他者に明確に伝えることができる	詳細な指導をすれば、必要な内容の5割程度を他者に明確に伝えることができる	詳細な指導をすれば、必要な内容の3割程度を他者に明確に伝えることができる	詳細な指導をすれば、必要な内容の1割程度を他者に明確に伝えることができる	3
		5	参加したプロジェクトにおける今後の課題が理解できる		3	指導がなくても、十分な内容を他者に明確に伝えることができる	若干の指導をすれば、必要な内容の7割程度を他者に明確に伝えることができる	詳細な指導をすれば、必要な内容の5割程度を他者に明確に伝えることができる	詳細な指導をすれば、必要な内容の3割程度を他者に明確に伝えることができる	詳細な指導をすれば、必要な内容の1割程度を他者に明確に伝えることができる	3
プレゼン準備	活動後の反省・成長	6	プロジェクトに参加した自分に対する成長が説明できる		3	指導がなくても、十分な内容を他者に明確に伝えることができる	若干の指導をすれば、必要な内容の7割程度を他者に明確に伝えることができる	詳細な指導をすれば、必要な内容の5割程度を他者に明確に伝えることができる	詳細な指導をすれば、必要な内容の3割程度を他者に明確に伝えることができる	詳細な指導をすれば、必要な内容の1割程度を他者に明確に伝えることができる	3
		7	プロジェクトに参加した自分に対する課題が説明できる		3	指導がなくても、十分な内容を他者に明確に伝えることができる	若干の指導をすれば、必要な内容の7割程度を他者に明確に伝えることができる	詳細な指導をすれば、必要な内容の5割程度を他者に明確に伝えることができる	詳細な指導をすれば、必要な内容の3割程度を他者に明確に伝えることができる	詳細な指導をすれば、必要な内容の1割程度を他者に明確に伝えることができる	3
		8	チーム活動における自分の特性を理解し、今後の活動に活かすことができる		3	指導がなくても、自分の特性を活かすことができる	若干の指導をすれば、自分の特性を活かすことができる	詳細な指導をすれば、自分の特性を活かすことができる	詳細な指導をすれば、自分の特性を活かすことができる	詳細な指導をすれば、自分の特性を活かすことができる	3
		9	成果を生むために重要なチームや個人としての在り方や考え方について説明できる		3	指導がなくても、十分な内容を他者に明確に伝えることができる	若干の指導をすれば、必要な内容の7割程度を他者に明確に伝えることができる	詳細な指導をすれば、必要な内容の5割程度を他者に明確に伝えることができる	詳細な指導をすれば、必要な内容の3割程度を他者に明確に伝えることができる	詳細な指導をすれば、必要な内容の1割程度を他者に明確に伝えることができる	3
		10	「地域創成メディアセンター」資格の目的や意義について理解できる		3	指導がなくても、十分な内容を他者に明確に伝えることができる	若干の指導をすれば、必要な内容の7割程度を他者に明確に伝えることができる	詳細な指導をすれば、必要な内容の5割程度を他者に明確に伝えることができる	詳細な指導をすれば、必要な内容の3割程度を他者に明確に伝えることができる	詳細な指導をすれば、必要な内容の1割程度を他者に明確に伝えることができる	3
1	プレゼンに必要な資料収集ができる		3	十分な資料を集められる	十分な資料は集められないが、簡便的に行っている	資料を集められない	資料を集められない	資料を集められない	資料を集められない	3	
2	プレゼン内容の方向性を考えることができる		3	自ら考えて工夫・改善が見られる	指導があれば、工夫・改善が見られる	指導があれば、工夫・改善が見られる	指導があれば、工夫・改善が見られる	指導があれば、工夫・改善が見られる	指導があれば、工夫・改善が見られる	3	
3	プレゼン内容を総合的に理解できる		3	十分に理解できる	ある程度は理解できる	ある程度は理解できる	ある程度は理解できる	ある程度は理解できる	ある程度は理解できる	3	
4	プレゼン内容を通して、大学での自らの成長や課題を客観的に整理できる		3	十分に成長がみられ、課題について整理できる	課題については整理できる	課題については整理できる	課題については整理できる	課題については整理できる	課題については整理できる	3	
5	プレゼン内容を通して、将来自分が貢献したい「地域」における「活動」を語るることができる		3	具体的な活動内容を語るることができる	ある程度の活動内容を語るることができる	ある程度の活動内容を語るることができる	ある程度の活動内容を語るることができる	ある程度の活動内容を語るることができる	ある程度の活動内容を語るることができる	3	
合計点 (47/100点)											

別紙② ルーブリック評価 (C表)

< C表 >

中部大学地域創成メディエーター資格申請 ルーブリック(C) 【発表会当日に評価員が記入】

被評価者氏名	学籍番号
--------	------

評価委員	所属:	氏名:	Ⓜ
------	-----	-----	---

区分	大項目	チェック	得点	小項目
プレゼン 当日	プレゼン内容が分かりやすい		A(3点)	内容が簡潔にまとめられていて理解しやすい
			B(2点)	内容は簡潔にまとめられているが、理解しづらい部分がある
			C(1点)	内容が簡潔にまとめられていないか、量が少なすぎるため、理解できない
			D(0点)	明らかに発表内容として不十分である
	プレゼン資料が見やすい		A(3点)	十分に工夫されていて分かりやすく、また効果的である
			B(2点)	工夫が少なく簡素ではあるが、理解できる
			C(1点)	資料不足あるいはまとめきれておらず、理解しづらい部分がある
			D(0点)	明らかに資料作成が不足していて、理解できない
	声の大きさが適切で、 身振りも使ってプレゼンができる		A(3点)	聞き取りやすい声で、身振りも使って発表ができる
			B(2点)	聞き取りやすい声ではあるが、身振りが少なく淡々と発表している
			C(1点)	声は大きいですが、早口で聞き取りづらい
			D(0点)	声が小さく、身振りも少なく、発表内容が分かりづらい
	プレゼンにふさわしい服装や姿勢、 視線、言葉遣いができる		A(3点)	いずれもふさわしいものである
			B(2点)	姿勢が悪く、下を向いているなど視線が定まっていない
			C(1点)	言葉遣いが悪く、言い直しが多い
			D(0点)	いずれもプレゼンにふさわしいものではない
	プレゼン内容に対しての 質疑応答ができる		A(3点)	質問に対して適切に答えることができる
			B(2点)	質問に対して時間は必要だが、答えることができる
			C(1点)	質問に対して適切に答えられない
			D(0点)	質問に対して全く答えられない
プレゼン内容を通して、 今後の自分のキャリア設計を 伝えることができる		A(3点)	具体的な内容を伝えることができる	
		B(2点)	曖昧な部分もあるが、ある程度は伝えることができる	
		C(1点)	キャリア設計と思われる内容はあがるが、伝えられない	
		D(0点)	キャリア設計と思われる内容がない	
				合計点 [18点満点]

別紙③ 地域創成メディエーター学生発表会 チラシ

文部科学省 **地(知)の拠点** 文部科学省 平成25年度「地(知)の拠点整備事業」選定取組 春日井市における世代間交流による地域活性化・学生共育事業

参加無料

中部大学
第6回「地域創成メディエーター」学生発表会

PLUS エクスプレッション



地域創成メディエーター資格とは？

地域の人と人をつ結びつけるメディエーター [mediator:媒介者]となり、春日井市をはじめ地域の様々な問題に主体性をもって取り組み、中部大学の建学の精神「不言実行・あてになる人間」を身につけた学生に認定される資格です。

2020 2/18 (火)
13:30 ▶ 16:30
(13:00 受付開始)

お問い合わせ
中部大学 COC 推進センター
〒487-8501 愛知県春日井市松本町 1200
TEL.0568-51-1763 FAX.0568-51-1172
E-mail coc@office.chubu.ac.jp
HP <https://www3.chubu.ac.jp/coc/>
※お申し込みは裏面をご確認ください

会場/中部大学不言実行館1F アクティブホールほか
主催/中部大学 後援/春日井市



中部大学



「地域創成メディエーター」資格は、資格そのものが大切なのではなく、その道のりこそが学生自らにとって大事なことであり、「意義」と「価値」がある「行動」です。

文部科学省 平成25年度「地(知)の拠点整備事業」選定取組
春日井市における世代間交流による地域活性化・学生共育事業
第6回「地域創成メディエーター」学生発表会

PLUS エクスプレッション

プログラム

- 13:30 開会挨拶：松尾 直規（中部大学COC推進センター長）
- 13:35 学生によるプレゼン発表【70分】
- 14:50 学生によるポスター発表【80分】2F ステージエリア
- 16:20 地域創成メディエーター認定証 授与式
- 16:25 閉会挨拶：櫻井 誠（中部大学COC推進センター 副センター長）
- 16:30 閉会

*プログラム内容は予告なく変更される場合がありますのでご了承ください



プレゼン発表	ポスター発表
地域創成メディエーター資格に挑む学生が、これまでの知識修得と体験を振り返り、達成感や今後の課題、目標なども交え、自己成長について自らプレゼンテーションを行います。	自己プレゼンテーション同様、ポスターを用いて自己成長について視覚的にPR。参加者の皆さまには学生と直接コミュニケーションをとっていただき、ご意見やアドバイスをお願いします。

中部大学へのアクセス

- JR神領駅からスクールバス
JR中央本線「神領(じんりょう)」駅下車
(名古屋駅より「普通」で約26分)、
北口「中部大学スクールバスのりば」から約10分
- JR高蔵寺駅から名鉄バス
JR中央本線・愛知環状鉄道「高蔵寺(こうぞうじ)」駅下車
(名古屋駅より「快速」で約26分)、
北口8番のりばより名鉄バス
「中部大学前」行に乗車(約10分)
- お車ご利用の場合
東名高速道路
春日井インターチェンジより約5分

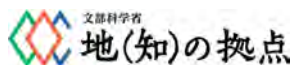


お申し込み締切
2/13(木)

参加ご希望の方は、下記ご記入のうえFAXにてご送信ください。お申し込みはメール、お電話でも受けつけております。

ふりがな			
氏名			
勤務先 団体名			
所属		役職	
連絡先	TEL		
	e-mail		

中部大学 | 参加お申込み・お問い合わせ先：中部大学COC推進センター
FAX.0568-51-1172 / TEL.0568-51-1763 e-mail. coc@office.chubu.ac.jp



文部科学省「地(知)の拠点整備事業」(COC事業) (平成25年度採択)
『春日井市における世代間交流による地域活性化・学生共育事業』

第6回地域創成メディエーター学生発表会 PLUS エクスプレッション

日時 : 2020年2月18日(火曜日) 午後1時30分～午後4時30分
会場 : 中部大学 不言実行館 1階 アクティブホール, 2階 スチューデント・コモンズ
主催 : 中部大学
後援 : 春日井市

13時30分～13時35分 (会場:1F アクティブホール)

開会挨拶 松尾 直規 (中部大学 COC推進センター長)

13時35分～14時40分

地域創成メディエーター紹介 上野 薫 (中部大学 応用生物学部・准教授)

学生による自己プレゼンテーション

- | |
|--|
| 1 「人との交流からの成長」
古川 穂高 (人文学部 歴史地理学科 2年) |
| 2 「『個』から『チーム』へ」
近松 温志 (経営情報学部 経営総合学科 3年) |
| 3 「私が救護ボランティアで学んだ事」
杉浦 公美 (生命健康科学部 スポーツ保健医療学科 3年) |
| 4 「これからを『創造』する」
吉田 寛奈 (工学部 建築学科 3年) |
| 5 「架け橋になりたい私」
ダダボエブ アフロル (工学部 都市建設工学科 3年) |
| 6 「松本町から学ぶ」
田邊 祐基 (人文学部 歴史地理学科 4年) |

<休憩・移動>

14時55分～16時15分 (会場:2F スチューデント・コモンズ)

学生によるポスター発表 ※詳細は裏面をご覧ください。

14:55～15:20 Aグループ 19名
15:22～15:47 Bグループ 19名
15:49～16:15 Cグループ 21名

<休憩・移動>

16時20分～16時25分 (会場:1F アクティブホール)

地域創成メディエーター認定証 授与式 石原 修 (中部大学長)

16時25分～16時30分

閉会挨拶 櫻井 誠 (中部大学 COC推進センター 副センター長)

**** 中部大学 国際・地域推進部 生涯学習推進課 ****
〒487-8501 愛知県春日井市松本町1200番地
Tel:0568-51-1763

■学生によるポスター発表(2月18日)

地域創成メディエーターポスター発表者(50名) / 地域活性化リーダーポスター発表(4名)

NO.	学科	氏名	学年
A-1	経営学科	岩田 尚也	4年
A-2	都市建設工学科	渡邊 知博	3年
A-3	食品栄養科学科 管理栄養科学専攻	内山奈奈香	2年
A-4	欠番		
A-5	経営総合学科	石上 智裕	3年
A-6	都市建設工学科	田中 拓斗	3年
A-7	理学療法学科	鈴木里奈子	2年
A-8	食品栄養科学科 管理栄養科学専攻	大西 梨沙	2年
A-9	経営総合学科	永田 悠真	3年
A-10	歴史地理学科	小林 玲奈	2年
A-11	欠番		
A-12	経営総合学科	細川 泰誠	3年
A-13	都市建設工学科	山田 一斗	3年
A-14	環境生物科学科	樋口 峻作	3年
A-15	日本語日本文化学科	西井 皓祐	3年
A-16	欠番		
A-17	生命医科学科	米山 佳那	3年
A-18	国際学科	阿野 春樹	3年
A-19	都市建設工学科	新山 大和	3年
A-20	建築学科	岡 慶延	2年
A-21	経営総合学科	山田 裕也	2年
A-22	都市建設工学科	北川 礼佳	2年

19名

■学生によるポスター発表(3月10日)

NO.	学科	氏名	学年
D-1	食品栄養科学科 管理栄養科学専攻	小谷 悠菜	3年

NO.	学科	氏名	学年
B-1	経営総合学科	高岡 来輝	4年
B-2	都市建設工学科	谷口 蓮	3年
B-3	スポーツ保健医療学科	栃岡 憂磨	3年
B-4	経営総合学科	野々山昌汰	3年
B-5	理学療法学科	金田 千佳	2年
B-6	食品栄養科学科 管理栄養科学専攻	徳應 朱音	2年
B-7	欠番		
B-8	都市建設工学科	伊藤 寛人	3年
B-9	建築学科	新城アレシャンドレ	2年
B-10	経営総合学科	渡邊 和志	3年
B-11	環境生物科学科	楯原 海斗	3年
B-12	欠番		
B-13	欠番		
B-14	理学療法学科	副田 珠真	2年
B-15	コミュニケーション学科	吉嶺 裕太	3年
B-16	都市建設工学科	山本 慶哉	3年
B-17	建築学科	黒川 弘人	2年
B-18	現代教育学科 現代教育専攻	山田 菜摘	4年
B-19	都市建設工学科	伊藤 大晟	2年
B-20	経営総合学科	川口 賢吾	3年
B-21	国際学科	松下 竜	3年
B-22	都市建設工学科	松島 伶維	2年

19名

■学生によるポスター発表(3月13日)

NO.	学科	氏名	学年
E-1	作業療法学科	加上 美玖	3年

地域創成メディエーターポスター発表者(合計61名)

NO.	学科	氏名	学年
C-1	経営総合学科	高山 稜矢	3年
C-2	都市建設工学科	川本 宜論	2年
C-3	国際学科	岡田 康宏	2年
C-4	環境生物科学科	金津 美幸	3年
C-5	経営総合学科	中山 貴文	3年
C-6	歴史地理学科	松下奈都実	3年
C-7	理学療法学科	鎌倉 未侑	2年
C-8	経営総合学科	細江 一貴	3年
C-9	都市建設工学科	吉戸 勇太	3年
C-10	生命医科学科	遠藤 由貴	3年
C-11	経営総合学科	山口 美春	3年
C-12	食品栄養科学科 管理栄養科学専攻	小野寺洸大	2年
C-13	生命医科学科	山本 桂子	3年
C-14	建築学科	宇佐美晶基	2年
C-15	都市建設工学科	川崎 愛弥	3年
C-16	コミュニケーション学科	吉嶺 涼太	3年
C-17	理学療法学科	勝股 駿	3年
C-18	欠番		
C-19	建築学科	千種 優吾	2年
C-20	国際学科	高杉 優香	3年
C-21	理学療法学科	松平 千乃	2年
C-22	都市建設工学科	松永 実和	2年

21名

■地域活性化リーダーポスター発表(4名)

C-23	食品栄養科学科 管理栄養科学専攻	内山奈奈香	2年
C-24	食品栄養科学科 管理栄養科学専攻	加藤 史帆	2年
C-25	食品栄養科学科 管理栄養科学専攻	鈴木 遥香	2年
C-26	食品栄養科学科 管理栄養科学専攻	野村 朋花	2年

[第6回地域創成メディエーター学生発表会] の様子 ～2020年2月18日(火)～



開会挨拶 松尾直規
(中部大学教授 COC 推進センター長)



学生によるプレゼンテーション 1



学生によるプレゼンテーション 2



聴衆からの質疑応答



学生によるポスター発表



評価員による評価



資格認定授与式 石原修 (中部大学長)



口頭発表・ポスター発表学生合同記念撮影

2 活動報告

- ・今年レベル高い。
- ・しっかり学生を教育している。
- ・教育効果は高い。参加できない学生へもアナウンスしていきたい。(大学教員)
- ・どの方も自分のことを客観的に見ることができて、なおかつ地域に貢献したい想いをしっかり語られて、すばらしいと感じました。
- ・お話をとても楽しく、上手に発表されていました。
- ・「何をやったか?」「何を学んだか?」は明確にアウトプットされる学生が多い中で、その「動機」や「その後の(自分の)考え」をより一層ブラッシュアップできると、より素晴らしい取組みになるのではと思います。
- ・地域の課題解決に取り組む、コーディネートするという事の内容がまるで無い。SDGsに関する内容も取り入れられていない。

8. その他ご意見ご要望などございましたらお聞かせください

- ・たくさんのお学生さんの学びに触れ、刺激をいただきました。ありがとうございました。
- ・初めて「地域創成メディエーター」のことを知りましたが、お学生さんから直に今のお考えを聞けることが楽しかったです。
- ・今一つ、春日井市の貢献が弱かったかな? 春日井市、特に高蔵寺ニュータウンの高齢化の問題を取り上げると良いが。
- ・口頭発表者の照明が暗いので、スポットライトが当たっているとよい。

2020年2月18日実施

(2) ワーキンググループ等報告

- ① 正課教育WG
- ② 地域連携プログラムWG
- ③ コミュニティ情報ネットワーク事業WG
- ④ 生活・住環境を考えるまちづくりWG
- ⑤ 高齢者・学生交流・LHS WG
- ⑥ CAAC運営委員会

① 正課教育WG

1. 活動組織

委員長	上野薫
副委員長	伊藤守弘
委員	竹内環、山羽基、伊藤佳世、羽後静子、小川宣子、牧野典子 (松尾直規)

2. 活動計画

4月-7月	「地域共生実践」春学期3クラス授業
4月-3月	地域創成メディエーター育成のルーブリック評価の見直し
4月-3月	地域創成メディエーターへの導き（広報活動）
4月-3月	関連科目担当者に対するAL/TBL勉強会の実施
4月-8月	「地域共生実践」テキスト修正案の作成・評価基準の検討
8月-9月	春学期「地域共生実践」ふりかえり、評価基準の再検討、協力者勧誘
8月-9月	地域創成メディエーター申請様式検討
9月-1月	「地域共生実践」秋学期5クラス授業
10月	地域創成メディエーター申請開始
11月	地域創成メディエーター審査（プレゼンテーション候補者の選出）
12月-1月	「地域共生実践」受講生への「地域創成メディエーター」説明会開催
12月-2月	地域創成メディエーター学生発表会
2月-3月	秋学期「地域共生実践」ふりかえり、評価基準の再検討、協力者勧誘
2月-3月	「地域創成メディエーター」認定

3. 活動成果

総括：計画に加えて、10月17日に「人生フルーツ」上映会を開催した。これは、在学生全般への地域創成メディエーター資格等、本COC事業で展開に関連し、より身近に地域の課題を感じてもらうための啓発の一環としての初めての試みであった。参加者のアンケートには、人生を考えるよいきっかけとなった、今後もこのような企画を希望する、など前向きな回答が多く、一定の効果が得られたと思われた。地域共生実践の運営に関しては、本年度も新たにグループワークを担当する教員が加わり、グループワークの課題や教授法においてより多様性が深まった。また、昨年同様、広報の成果もしくは学生の口コミによる影響と推測されるが、メディエーター資格への学生の履修時での目的意識が高まり、他の関連既存科目との関連付けや連携がよりスムーズになった。なお、昨年度までの課題とされていた、国家資格取得を目指す学科での地域創成メディエーターの申請資格の取得しにくさについては、必須科目となっている講義の開講数が既に増えていることから、「1年次で取得してしまうのではなく、3年次までにゆっくり取得を目指す」方針にとどめ、緩和方向への対応策は講じなかった。この点については、次年度も引き続き反応に留意しながら運営していきたい。

2 活動報告

項目別：

- 4月-7月 「地域共生実践」春学期3クラスの授業運営を実施した(履修者 60+73+76=209名、教員7名)。
- 4月-3月 地域創成メディエーター育成のルーブリック評価の見直し：委員会等により意見を収集したが大きな問題は認められなかったため、昨年通りで実施した。
- 4月-3月 地域創成メディエーターへの導き(広報活動)：オリエンテーションでのパンフレット配布・説明などを行った。
- 4月-3月 関連科目担当者に対するAL/TBL勉強会の実施：PBL ぎふゼミおよびCOC+サマースクール、学外フォーラムなど、主担当者の参加により実施した。
- 4月-8月 「地域共生実践」テキスト修正案の作成・評価基準の検討：委員会等により意見を収集したが、大きな問題は認められなかったため昨年通りで運営した。
- 8月-9月 春学期終了後、担当者間で春学期「地域共生実践」のふりかえり、評価基準の再検討を行うとともに、秋学期の協力者の勧誘を行った。
- 8月-9月 地域創成メディエーター申請様式検討：委員会等により意見を収集したが、大きな問題が認められなかったため、昨年同様での実施となった。
- 9月-1月 「地域共生実践」秋学期5クラスの授業運営を実施した(履修者 73+75+76+76+74=374名、教員10名)。
- 1月-3月 秋学期終了後、秋学期「地域共生実践」のふりかえり、評価基準の再検討を行うとともに、次年度の協力者を勧誘した。
- 10月 地域創成メディエーター申請を予定通り開始し、17日に「人生フルーツ」上映会を学内にて開催した(参加者数:学生59名、教職員54名)。
- 11月 地域創成メディエーター審査(プレゼンテーション候補者の選出)を予定通り実施した。
- 12月 「地域共生実践」受講生への「地域創成メディエーター」説明会を開催(2回実施)した。「動く」指導担当教職員へのポスター作製における指導を昨年と同様に具体的に実施し、配布資料にも明記した。
- 2月 口頭発表練習を実施し、プレゼンテーションの本質的な目的や具体的な方法について指導するとともに、学生同士での学びの機会を与えた(2020年1月22日に1回目を実施。2月17日に2回目を実施)。
- 2月 地域創成メディエーター学生発表会の実施(+エクспレッション、2020年2月18日および3月10日、13日の3回で実施)。
- 2月-3月 「地域創成メディエーター」認定予定(2月18日時点で67名エントリー)。昨年より若干少ない人数ではあるが、自主性の高い候補者の輩出を予定している。



② 地域連携プログラムWG

1. 活動組織

委員長	伊藤守弘
副委員長	櫻井誠
委員	花井忠征 羽後静子 武田明 横手直美 丹羽ゆかり 大竹雄平 田中順 (松尾直規)

2. 活動計画

<報酬型インターンシップ>

4月上旬	新入生にパンフレット配布
4月上旬	長期型・多業種型（春学期）説明会開催
5月/10月	参加学生との意見交換会開催
6月下旬	長期休業中特別コース（夏季）説明会開催
9月下旬	長期型・多業種型（秋学期）説明会開催
10月上旬	春日井商工会議所との打ち合わせ会開催
10月中旬	2019年度 第1回中部大学学外特命教授の会開催
12月上旬	長期休業中特別コース（春季）説明会開催
2月下旬	春日井商工会議所との打ち合わせ会開催
3月上旬	2019年度 第2回中部大学学外特命教授の会開催
3月中旬	修了証書授与式

<地域連携住居>

5月上旬	藤山台団地運動会運営補助
5月/10月	廃校となった小学校校庭の清掃活動参加
7月上旬	地域貢献活動、自治会行事参加
7月-9月	地域貢献活動、自治会行事参加、CU+自主企画実施
10月/3月	三者会議開催（UR都市機構・春日井市・中部大学）
11月-12月	地域貢献活動、自治会行事参加、CU+自主企画実施
1月-2月	地域貢献活動、自治会行事参加、CU+自主企画実施
3月中旬	報告会、地域貢献活動、自治会行事参加、CU+自主企画実施

3. 活動成果

【総括】

地域連携プログラムWGは、報酬型インターンシップWGと高蔵寺NTキャンパスタウン化WGを統合する形で組織されている。

報酬型インターンシップでは、春日井商工会議所と連携協定を締結し、単なる就労ではなく、人材育成プログラムとして意識的に社会の現場で学生を教育するインターンシップ型の就労システムの構築を目的とした。また、地域連携住居では、高齢化で衰退した高蔵寺ニュータウンを活性化する目的で、地域と大学が融合した若者も生活

する場とする。特に入居学生による活動組織である、中部大学KNT創生サポーターズCU+（通称CU+）が地域貢献活動を行っている。CU+主催によるコーヒーサロンなどの地域交流イベントが地域住民において好評である。

【2019年度 項目別成果】

<報酬型インターンシップ>

- 1) 学外特命教授の会を2回行った。
- 2) 春日井商工会議所と2回(9月、3月(予定))打ち合わせを行った。
- 3) 春学期、夏季休業中、秋学期、医療系報酬型インターンシップ(春季休業中を除く)合計79名参加した。内訳は春学期8名、夏季休業中34名、秋学期7名、医療系30名(LP9名、LC19名、LS2名)である。
- 4) ポイント制度により報酬型インターンシップ修了証書を授与することを決定し、本年度は4名に授与する予定である。
- 5) 学内説明会を4回(4月参加学生数:106名、6月参加学生数:50名、9月参加学生数:61名、12月参加学生数:51名)開催した。
- 6) 参加者との意見交換会を1回(12月9日参加学生数:4名)開催した。
- 7) ポスター、パンフレットを作成し、全学生に周知した。
- 8) 参加企業が79社(2020年1月11日現在)に増加した。
- 9) 参加企業の社員とランチを食べながら交流をする「モグジョブ」を初開催した。



報酬型インターンシップ説明会



学外特命教授の会



モグジョブ

<地域連携住居>

- 1) 三者会議(UＲ都市機構・春日井市・中部大学)を2回行った。(12月、3月)
- 2) 2015年から地域連携住居の運用を開始し、2019年度は80名(2020年1月7日現在)
- 3) 新入生宛入学手続関係書類に案内チラシを同封した。
- 4) 学生寮を退寮する学生に2回の説明会を実施した。(11月7日参加学生10名、11月28日参加学生11名)
- 5) 中部大学KNT創生サポーターズCU+（通称CU+）は12回の自主企画を開催した。また、総イベント参加回数は39回であった。
- 6) 年間活動報告会を2月末に行った。(各自治会代表者・UR都市機構・春日井市・中部大学)



廃校になった小学校校庭の清掃活動



団地内の清掃活動

③ コミュニティ情報ネットワーク事業WG

1. 活動組織

- 委員長 保黒政大
副委員長 富永敬三
委員 前田和昭、宮下浩二

2. 活動計画

地域住民に役立つコミュニティ情報ネットワークを構築し、地域がIT化により豊かで便利な地域として発展するための情報システムの開発研究を推進する。

1) 医療情報システム

医療情報共有システムを改良すると共に、システム利用業種の増加を図る。

2) NPO活動情報受発信システム

- ・活動情報の発信およびホームページ広報のために地域広報誌を作成、発行する。
- ・高校生向け部活動支援

体育会系部活動に所属する高校生に向けて、部活動におけるケガの発生を未然に防ぐための講義・実技の講習会を実施する。

<イベント>

- | | |
|-----|-------------------|
| 6月 | スポーツ障害予防の講義・実技講習会 |
| 11月 | スポーツ障害予防の講義・実技講習会 |
| 11月 | デザイン講習会 |
| 12月 | 地域広報誌の作成・発刊(1回目) |

3. 活動成果

【イベント】

- ・部活動支援講習会(4～8月)
春日丘高校の野球部を対象にスポーツ障害予防方法の講義と実技講習会を実施。参加生徒数：のべ 42名
- ・まちこみゅニュース編集に向けた、地元のデザイナーによるデザイン講習会(11月) 参加学生数：約 40名
- ・部活動支援講習会(11月) 参加学生数：5名
高蔵寺高校の運動部を対象にスポーツ外傷の応急処置方法の講義と実技講習会を実施。
「スポーツのケガを予防するために知っておくべきこと」
参加生徒数：約 130名
- ・まちこみゅニュース編集に向けた、地元のデザイナーによるデザイン講習会(1月) 参加学生数：2名
- ・「まちこみゅニュース Vol. 8」を発行(2月) 参加学生数：2名

2 活動報告

【概要】

- ・春日井市医師会への医療情報共有システムは昨年度で停止となったが、中部大学で運用しているサーバでのサービスは継続中。
- ・春日井市内の高校にて部活動時のケガ防止やケガ発生時の対応に関する講習会を実施した。(参加学生数：5名)
- ・NPOの活動情報発信と情報共有のためのホームページ周知と電子媒体が苦手な方々への対応として紙媒体の「まちこみゅニュース」を発行。(参加学生数：2名)



部活動支援講習会



デザイン講習会

④ 生活・住環境を考えるまちづくりWG

1. 活動組織

委員長 磯部友彦
副委員長 松山明
委員 岡本肇 余川弘至 横江彩 尾鼻崇 林良嗣 小川宣子

2. 活動計画

5月 高蔵寺ニュータウンの課題についての住民との意見交換
6月 まちづくり勉強会(学内)の実施
10月 高蔵寺ニュータウンの問題解決法についての住民との意見交換
10月 タウンウォッチング(学外)の実施
10月 春日井まつり わいわい☆カーペンターキッズにボランティア参加
通年 演習・ゼミナールのテーマとして現実の地域課題を取り上げる。
通年 卒業研究のテーマとして地域課題に対する解決方法に取り組む。
通年 地域の人々との十分なコミュニケーションを交えた学生の自主活動を促進する。
通年 過年度の地域志向研究経費による活動のフォローアップをする
通年 地域創成メディエーターの育成を計画的に実施する。

3. 活動成果

1) 正課としての活動

- ・都市建設工学科「部門創成B(3年生科目)」において現地視察等を実施。

10月15日 春日井市役所ならびに JR 勝川駅周辺【参加者:学部生14名、院生1名】
(磯部担当)



都市建設工学科「部門創成B」
JR 勝川駅周辺視察



都市建設工学科「部門創成B」
豊田市エコフルタウン視察

2 活動報告

10月15日 JR大曾根から名古屋市役所の視察【参加者:学部生17名】(岡本担当)

10月29日 豊田市エコフルタウン【参加者:学部生14名、院生1名】(磯部担当)

10月29日 瑞浪市内推進工法の見学【参加者:学部生7名】(余川担当)

11月5日 高蔵寺ニュータウン【参加者:学部生17名】(岡本担当)



豊川・矢作川連合総合防災演習・
広域連携防災訓練

- ・都市建設工学科「特別講義(1年生科目)」
において、現場見学を実施。

11月19日 関西電力(株)
丸山発電所(岐阜県加茂郡八百津町)ならびに国土交通省犀川遊水地(岐阜県瑞穂市)【参加者:学部生90名】(岡本担当)



2) 課外活動の実施

- ・5月12、18、19日 2019年 豊川・矢作川連合総合防災演習・広域連携防災訓練(国土交通省中部地方整備局、愛知県等の主催)に学生院生が参加【参加者:学部生36名、院生4名】(松尾、武田、杉井、余川担当)

5月12日に水防講習会、5月18日に水防演習のリハーサル、5月19日に水防演習の本番が実施され、それぞれに、学部1年生3名、2年生5名、4年生28名、院生4名が参加した。



高森山公園未来プラン構想ワークショップ

- ・8月4日、5日、6日、7日、9月27日、10月13日、27日 高森山公園未来プラン構想ワークショップ(主催:春日井市、協力:高蔵寺ニュータウン再生市民会議)に学生参加【参加者:学部生16名】(岡本担当)

- ・10月19日、20日 春日井まつり わいわい☆カーペンターキッズ（愛知県建築士会春日井支部、春日井設計協会の行事）にスタッフとして学生参加【参加者：学部生9名】（松山担当）
- ・10月16日、17日 建設技術フェア2019in中部（主催：国土交通省中部地方建設局等、会場：名古屋市吹上ホール）に学生参加【参加者：学部生20名】（余川担当）

3) 各学科の卒業研究

- ・都市建設工学科での卒業研究において地域に関する多くの課題が選定され、解決方法の検討がなされた。【参加学生48名】
- ・建築学科での卒業研究、卒業設計において地域に関する多くの課題が選定され、解決方法の検討がなされた。【参加学生67名】

4) 地域志向教育研究活動フォローアップ

- ・春日井市の産地直売ひろば「ぐうぴいひろば」（JA尾張中央と連携）での活動（小川担当）

12月7、8日「栄養を考えたクリスマス料理」

【参加者：学部生6名】

12月21、22日「野菜を取って、免疫力UP」

【参加者：学部生8名】

活動内容について協力していただける方60名を対象にアンケート調査を実施し、その結果を「ぐうぴいひろば」店内にて掲示。



春日井市の産地直売ひろば「ぐうぴいひろば」

5) 地域創成メディエーターの育成

4. 次年度に向けての課題

- 1) 学外向け(例えば地元市民)のセミナー等を開催する。
 - ・とくに、卒業研究、卒業設計のテーマ選定において、地域志向を考慮する。
- 2) 地域創成メディエーターの育成を計画的に実施する。(受講科目の指導を含めて)
- 3) グループ内の交流(教員だけでなく学生・院生を含める)を活発化させる。
- 4) 春日井地域での活動経験をもとに、他地域での活動にも積極的に取り組む。(例えば、中部大学と連携協定の締結を結んでいる自治体)

⑤ 高齢者・学生交流・LHS WG

1. 活動組織

委員長 戸田 香
副委員長 堀 文子
委員 長島万弓 野田明子 三摩真己 末田智樹 尾方寿好 矢澤浩成
谷利美希 松村亜矢子 北辻耕司 大竹雄平 殿垣博之 (櫻井 誠)

2. 活動計画(実施日)

5月	マナー講習会	(5月29日・6月5日)
6月	栄養教室	(6月15日)
8月	福祉用具体験セミナー	(8月21日)
9月	体力測定会	(9月28日)
10月	松本町祭り(歴史地理学科LHV)	(10月13日)
随時	アクティブシニアとの交流活動	(6月22日、9月14日、11月16日)
随時	睡眠・物忘れ相談会(臨床検査LHV)	
随時	消防団関連活動	
毎月	KCGサークル 健康教室	(毎月2回・年間24回 開催)

3. 活動成果

1) マナー講習会 参加人数：43名・24名(企画担当：堀文子)



実りある交流会のために双方が心地よく交流し、良い学びと環境を目指すため、「高齢者の特徴を知る」「マナーについて知る」「地域高齢者との交流を通じての目標を描くことができる」ことをねらいとして、コミュニケーションの演習を含めて実施した。受講後のアンケート調査では98.5%が世代間交流会に役立つと回答した。世代間交流向けの準備として、次年度も計画していきたい。

2) 栄養教室 参加人数：29名(企画担当：長島万弓)

「今から始めるゴマ習慣～1日2杯のエブリディゴマ～」というテーマで、①ゴマの機能性とゴマスプラウトに関する栄養教育、②ゴマ入りクレープの調理と試食、③製麺機を使ったゴマスプラウト入り麺の製造と試食、④食育SATシステム(ICチップ内蔵食品サンプルによる栄養価提示装置)を用いた食事指導等の4点を実施した。企画した4年生スタッフにとっても地域創成メディアーター取得を意識した1年生にとっても、栄養教育の実践の場としてプレゼンテーションやコミュニケーションを学ぶ機会となった。参加者のシニアにとっては食材の持つ機能を知り、自身の食生活に興味を持つきっかけとなり、また学生との交流を楽しんで頂く機会となった。参加者の確保が課題となるが、今後も継続していく意義は大きいと考える。



3) 福祉用具体験セミナー 参加人数：23名（企画担当：堀文子）

「移乗・移動・体位保持に関する福祉用具～ベッドに寝かせきりにしない為に、介助する人も介助される人も安全で安楽に行う方法を体験しよう～」との案内で参加者を募集し実施した。1グループ5～6名でスライディングシートを用いたベッド上での移動やスネーククッションでの安楽な姿勢およびベッド・車いす間の移乗をボード・イージーリフト・走行式リフト等を使用して体験した。学生にとっては、シニアとの交流だけでなく他学科の学生との交流も体験実習を通して楽しむことができた。また、シニアとの交流時には、マナー研修で学んだことを実践して会話の幅を広げたり、楽しみつつも敬語などの課題も発見していた。次年度も安全に留意しながら継続していきたい。



4) 体力測定会 参加人数：111名（企画担当：戸田香）



平成25年から活動を継続し、今年度は半日での開催として30名の測定を実施した。生命医科学科、理学療法学科、作業療法学科、管理栄養科学専攻、歴史地理学科の学生が参加し、シニアの案内と測定を担当した。測定会の開催の主たる目的は世代間交流であるが、同時に、日ごろの学びの成果を発揮できる場でもある。地域住民にとってはロコモ度チェックを中心に睡眠・物忘れ、栄養調査、心電図、頸動脈超音波検査などにより、健康管理の一助となっている点で活動の意義は大きいと考えている。次年度も継続予定である。

5) 松本町祭り 参加人数：14名（企画担当：末田智樹）

中部大学東側に隣接する諸大明神社において、毎年行われている松本町祭へ参加させて頂き、幅広い年代の地域住民の方々との交流を深めることができた。今回で3回目の参加であり、昨年度に引き続き御輿を担ぐ重要な係を担当させて頂いた。松本町をあげての盛大な五穀豊穰に感謝する秋祭りを体験することができ、松本町の歴史民俗を深く学べる貴重な機会を得た。来年度以降も参加し、交流を継続する予定である。



6) アクティブシニアとの交流活動（年3回開催）参加学生数：延べ41名

（企画担当：谷利美希）

本活動は、理学療法および作業療法学科などの学生が、世代の異なる高齢者の特徴や生活環境を理解し、コミュニケーション能力や状況判断力を養うために実施している。具体的には、地区社協主催「珈琲サロン」に参加し、学生企画の創作活動やスマホの使い方相談を通じて、地域在住高齢者と学生が交流を行った。学生からは、「高齢者の特徴を知ることができた」「相手のペースに合わせて関わ

る大切さが分かった」「視野を広げるために今後も参加したい」等の声が聞かれ、高齢者からは、「楽しい時間を過ごせた」「またスマホの使い方を教えてほしい」等の意見をいただいた。学生への教育的効果の検証および、高齢者の世代間交流活動に対する意識調査についてまとめ、今後の活動に反映する予定である。



7) 睡眠・物忘れ相談会 (企画担当：野田明子)

学内で週1回、地域で年間4回(参加人数延べ48名)開催した。2-10名の学生は毎回参加した。本相談会は、地域の皆様の心血管病・睡眠障害・認知症予防、健康寿命の延伸、世代間交流による学生のコミュニケーション能力および医療関連の知識・技術の向上を目的とする。睡眠・動脈硬化・物忘れ・骨密度などを評価し、健康指導を行っている。疾病の早期発見・予防に繋がるケースも多い。生命医学を学ぶ学生は実体験を通じ、地域貢献や基礎医学の学習に対する意欲を高め、地域の皆様と交流を自ら深めている。さらに効果的かつ意義ある活動として、今後も展開していきたいと考えている。



8) 地域におけるスポーツ・防災活動を通じた地域活性化への取組み(消防団)

週1回(年間で48回) 各回、学生10名が参加 (企画担当：尾方寿好)

“グループふじとう”にて地域の高齢者および小学生に運動指導を実施、シニア(13名)と小学生(11名)を対象とした運動教室を開催した。この教室では、スポーツ保健医療学科の学生が運動指導を行う。キャリア開発のみならず、世代間交流を通じたコミュニケーション能力の向上など、学生にとって様々な学びがあったと思われる。今後は実際に学生が感じている学びを明らかにしつつ、運動教室を継続していきたい。

9) 消防団活動 (企画担当：北辻耕司)

春日井市内における消防団活動、学内での活動を合わせて年間30回の活動を行った。5月26日；緑ヶ丘区での訓練指導、10月5日；石尾台自主防災会での訓練指導、11月10日；上野区における訓練指導、11月24日；鷹来公民館で防災拠点訓練などは特に地域の市民に対する防災訓練として、学生が直接市民に対し指導を行ったものとして、消防団活動を通じたコミュニケーション能力の向上につながるものであった。このように消防団活動は学生にとって有意義な活動と思われる。今後も春日井市消防本部とのつながりを持ち続け、消防団活動を継続していきたい。

10) KCG (企画担当：矢澤浩成)

KCG(K：高蔵寺C：中部大学G：元気)サークルは、地域在住高齢者が発起人となり、高齢者と理学療法学科の学生及び教員によって2014年から継続して開催している。サークルの内容は、健康維持・増進を目的とした体操、レクリレーション、ディスカッションなどである。現在サークルの在籍者数は高齢者が32名、学生の参加総数は5年間で35名であり毎年5~10名が参加している。学生はサークルに参加することで、地域在住高齢者の健康維持・増進に寄与できているだけでなく、同世代間では経験することが出来ないコミュニケーション体験の場となり、臨床実習に向

けた準医療人としての自覚と臨床力を高めることができている。来年度以降も継続予定である。



11) まとめ

いずれの活動も、地域貢献活動として重要なテーマで企画されている。昨年に比べ、今年度からは学外で実施する活動を充実することができた。とくに、消防団の活動が地域に広く展開し、KCG 活動も含め、地域からの信頼を得ている点は大きな成果であると考えている。

すべての活動は参加した学生の実践的学びにつながり、学生自身の成長を本人が自覚できている点も評価に値する。学部間の学生交流も徐々にではあるが広がっており、来年度以降はさらなる充実が可能と思われる。

⑥ C A A C 運営委員会

1. 活動組織

委員長	松尾直規
副委員長	對馬明
委員	羽後静子 櫻井誠 林上 末田智樹 藤丸郁代 甲田道子 伊藤正晃 出口良太 大竹雄平

2. 活動計画

- 4月中旬 C A A C 6期生募集要項の配布・発送開始
- 5月10日(金)～6月28日(金) C A A C 6期生出願期間
- 7月17日(水)・18日(木) C A A C 6期生面接試験日
- 7月31日(水) C A A C 4期生学習成果(修了)発表会
- 8月30日(金) C A A C 4期生修了式
- 9月18日(水) C A A C 6期生入学式
- 9月23日(月) C A A C 授業開始(5期生・6期生)
- 10月1日(火)～2日(水) C A A C 6期生オリエンテーション合宿(新穂高山荘)

3. 活動成果

(1) 受講生の募集活動

C A A C 運営上の課題である受講生の募集活動として、シニア向け情報誌「ローズ」広告掲載〔2月16日(土)〕、中日新聞地域限定(高蔵寺NT・小牧桃花台)折込チラシ〔5月27日(月)〕、地域広報誌・情報誌への募集案内掲載、C A A C リーフレットの配布〔通年〕を行った。その他、中部大学フェア出展〔9月12日(木)〕、桃園の夢(同窓会誌) C A A C 宣伝文掲載〔10月1日(火)〕、三浦記念会館サテライトカレッジ・グループふじとう C A A C リーフレット設置、春日井商工会議所ビジネスフォーラムにてリーフレット配布〔11月15・16日(金・土)〕、春日井市・グループふじとう主催 G フェス音楽セミナー参加〔12月8日(日)〕等行った。

(2) 学び環境の多角化

C A A C 運営委員会〔4月19日(金)〕にて議論を行い、C A A C での学びの環境の多角化を目的としてカリキュラムの改正とオープンカレッジ聴講制度を新設、科目受講生制度を新設した。また、年間授業料の2期分納化を行い、受講生への金銭的な負担の感覚的な軽減も行った。現在、科目受講生制度を通じて C A A C で学んでいる方もいるが、将来的に正規の入学につながられればと考えている。また、現1年生は2020年度からオープンカレッジ聴講制度を利用して、さらに大学での授業に受け込みやすくなると考えている。

(3) 開講した(する:2019年9月～2020年8月)授業

2019年度の開講コマ数は1年生が16科目(152コマ)、2年生が15科目(120コマ)とセミナー(128コマ)となっている。



中部大学フェア



第4期生学習成果(修了)発表会



第4期生修了式(11名)



第6期生入学式(6名)



第6期生オリエンテーション合宿



講義「英会話入門」



講義「健康増進実習」



講義「高齢者福祉と介護保険法」

4. 今後の展望

政府は人生 100 年時代を見据えた経済・社会システムを実現するための政策のグランドデザインに係る検討を行うため、首相を議長として「人生 100 年時代構想会議」を開催している¹⁾。これは一億総活躍社会の実現、すなわちシニアも含めたすべての国民が何らかの形で活躍できる場を作ること为目标としているといえる。また、文部科学省も社会人の学び直しの更なる推進を図ろうとしている²⁾。

本学は、シニアに再学習の場を提供するとともに学生教育にも役立てることを目的として、50 歳以上のシニアを対象として 2 年課程の C A A C を開設した。大学での 4 年間の学びの期間が第 1 のモラトリアムとするならば、C A A C での学びは次の人生ステージをどのように過ごすのかを考える第 2 のモラトリアムといえる。修了生はこれまでの生活の糧とは違った仕事を始めた方、NPO 法人を立ち上げ活躍されている方、自宅を開放し様々な年代の方が集まることのできるスペースを作られた方など、皆さん元気にご活躍中である。C A A C は一億総活躍社会の実現を地で行くような存在となっていると考えられる。

現在、正規入学生として 2 年生（第 5 期生）7 名、1 年生（第 6 期生）6 名が C A A C で学んでいる。また科目受講生として 2 名の方が 5・6 期生とともに興味がある科目を選択し受講している。将来はこの制度をさらに専門的に充実させて社会人の学び直し、いわゆるリカレント教育の場を創造することも検討していく必要があるように思われる。

1) www.kantei.go.jp/jp/singi/jinsei100nen/

2) www.mext.go.jp/b_menu/.../1394983_2_1.pdf

3. 新聞記事

障害者スポーツ難しい!

講演と体験会で障害者スポーツへの理解を深める催し「障害者スポーツの体験 ふれあい交流二〇一九」が二十八日、春日井市松本町の中部大であり、百五十人が参加した。

県と県社会福祉協議会、中部大が主催。講演では豊田市出身でパラ陸上400メートル日本記録保持者の池田樹生選手(三三)＝東京都杉並区＝が講師を務めた。

池田選手は生まれつき右足などに障害があつて義足で選手活動をしている。二〇二〇年東京パラリンピック出場が目標で、「自分が活躍することで世の中を驚かせて、見た人が何かに挑戦するきっかけになりたい」と語った。

体験会は心身に障害のある人となない人がともに参加し、競技用車いすに乗ったりした。

みよし市の三好高スポーツ科学科三年、岩瀬麻由香さん(二〇)＝豊

中部大 パラ陸上・池田選手が講師の体験会



田市＝は膝を曲げた状態で取り付ける健常者の体験用義足を片足に付けてみた。「テレビで義足を付けた人を見ると何げなく歩いていく感じでしたが、自分で付けてみるとバランスがとても難しかった」と話していた。

(高岡涼子)

池田選手(左)に支えられながら義足を体験する参加者＝春日井市の中部大で

2019年9月29日(日) 中日新聞

*この記事・写真等は、中日新聞社の許諾を得て転載しています。

文部科学省「地（知）の拠点整備事業」（平成 25 年度採択）
『春日井市における世代間交流による地域活性化・学生共育事業』
2019（令和元）年度 成果報告書

発行日 2020 年 3 月

編集発行 中部大学 国際・地域推進部
〒487-8501 愛知県春日井市松本町 1200 番地
電話：0568-51-1763 FAX：0568-51-1172
<https://www3.chubu.ac.jp/coc/>

印刷 木野瀬印刷株式会社
〒486-0958 愛知県春日井市西本町三丁目 235 番地

